

お客様各位

NetIQ(株)Attachmate 事業部

Reflection for Secure IT UNIX 8.0 SP1 リリースのお知らせ

この度 Reflection for Secure IT (RSIT) UNIX 8.0 SP1 を 国内リリースする運びとなりました。
以下 その内容につきましてご案内申し上げます。

記

1. 対象製品

- 1) Reflection for Secure IT (RSIT) UNIX サーバ 8.0 SP1
- 2) Reflection for Secure IT (RSIT) UNIX クライアント 8.0 SP1

[注 1] : RSIT 製品間の最新バージョンが相違しますが、相互接続性は問題ありません。

2. 8.0 からの主な変更内容

2.1 追加項目

[A] サーバ/クライアント 共通

- 1) サポートプラットフォームの追加 (詳細は 次頁 3. 参照)
 - a) Oracle Solaris 11 (SPARC)

[B] サーバ機能

- 2) `/etc/init.d/ssh` サービススクリプトに `condrestart` (conditional restart) を追加 (Solaris 10 以降の SMF (Service Management Facility) を使用した Solaris を除く全てのプラットフォームで使用可。)
- 3) `sshd2_config` において `MaxSessions` パラメータを追加
`MaxSessions` : Connection Reuse 使用時に 1 Connection 当りのチャンネル多重度上限値を指定。
値 0~10 を指定。値 10 (デフォルト、従来の固定値)、値 1: 多重なし、値 0: 接続無効。

[C] クライアント機能

- 4) cron ジョブやバックグラウンド実行のように tty を持たない実行環境においても、`sftp`, `scp` バッチ処理実行時に、リダイレクト標準出力に画面表示転送結果サマリを出力。

2.2 削除項目

[A] サーバ/クライアント 共通

- 1) `sshd2_config`、`ssh2_config` における `TrustAnchor` パラメータを削除
(証明書認証時に連携動作する Reflection PKI Service Manager の `pkid_config` 設定にて指定)

2.3 不具合対策

[A] サーバ機能

- 1) 接続クライアント側の ssh プロセスがサスペンド状態の時に、サーバ側で Rekey 処理(暗号化用キーの再生成処理)を開始すると、サーバ側 CPU 使用率が高くなる問題
- 2) 複数の証明書を所有するクライアントからの証明書認証において、1 枚目の証明書の認証試行に失敗した時に 2 枚目以降の証明書をサーバから要求しないために認証が失敗する問題
- 3) `RekeySignals=INT` 設定の RSIT UNIX クライアントから、同一ユーザに対して複数の ssh 接続を確立中に、一つの ssh 接続を `Ct1+C` で中断すると、それ以外の接続も切断してしまう問題

[B] クライアント機能

- 4) `StrictHostKeyChecking` を `no` に指定しても、サーバのホスト鍵変更後の初回接続時に確認メッセージを表示してしまう問題。
- 5) 或る他社 SSH サーバとの SFTP v4 によるファイル転送(アップロード)が不可となる問題。

3. 対応プラットフォーム

- a) IBM AIX 7.1, 6.1, 5.3 (POWER)
- b) HP-UX 11i v3 (Itanium)
HP-UX 11i v2 (Itanium, PA-RISC)
- c) Red Hat Enterprise Linux 6, 5 (x86, x86-64)
- d) Oracle Solaris 11 (SPARC)
Oracle Solaris 10 (SPARC, x86, x86-64)
Oracle Solaris 9 (SPARC)
- e) SUSE Linux Enterprise Server 11 (x86, x86-64)
SUSE Linux Enterprise Server 10 (x86, x86-64, zSeries 64)

・詳細は、下記 Technical Note を参照下さい。

Technical Note 1944 : 「Reflection for Secure IT Client and Server Supported Platforms」
<<http://support.attachmate.com/techdocs/1944.html>>

4. 入手方法 ～ 対象：ボリュームライセンス (VPA) 保守契約のお客様

・「Attachmate ダウンロードライブラリ」サイトにログインし、ダウンロード入手下さい。

<手順>

- 1) 「Attachmate ダウンロードライブラリ」サイトへ下記いずれかの方法でアクセス：
 - a) 直接 URL “<https://download.attachmate.jp/Login.aspx>” を入力
 - b) ホームページ “<http://www.attachmate.jp>” から [サポート]>[ダウンロードライブラリ]と選択
- 2) 「Attachmate ダウンロードライブラリを使用」ページにて、“ユーザ名”/“パスワード”を入力
- 3) 「保守の内容」ページにて対象製品の“ダウンロード”をクリック
- 4) 「Reflection for Secure IT UNIX Server」又は「Reflection for Secure IT UNIX Client」一覧において 対象“ファイル名”をクリック：
～ “Current Product Release”一覧表に今回バージョン 8.0+SP1(8.0.1.57)を表示。
説明欄に示す対象プラットフォームの“ファイル名”をクリックし、次ページに進みます。
- 5) 「ファイル情報とダウンロード」ページにてダウンロード操作：
～ 下部枠内 “輸出規制を含むソフトウェアライセンス使用許諾契約に合意しません”をチェックし、“ダウンロード: (ファイル名)”をクリックしダウンロードを開始します。

5. 日本語マニュアルについて

・『Reflection for Secure IT Client and Server UNIX 8.0 SP1 ユーザガイド』をご利用下さい。

<入手先>:

弊社テクニカルサポート FAQ No. 7388 : 『RSIT UNIX 8.0 SP1 の日本語ドキュメント』
<<http://attachmate.okweb3.jp/EokpControl?&tid=55681&event=FE0006>>

6. お問い合わせ先

・ご不明な点は、下記連絡先までお問合せ下さい。

NetIQ 株式会社 Attachmate 事業部
E-mail : j-info@attachmate.com

以上